

10. 第十中学校区地域教育協議会への「魅力ある学校づくり構想」の検討状況説明会・質疑応答（概要）

○日 時：平成 28 年（2016 年）12 月 13 日（火）18 時 00 分～

○場 所：第十中学校

質問・意見等	豊中市からの回答
<p>土地の活用方法について、これまでの豊中市が庄内地域で行ってきた公共施設の跡地活用方法は、公共施設の跡地を即売却する等、庄内地域のことをよく考えて実施してきたとは思えない。今回はしっかりと庄内地域の事を考えて検討して欲しい。</p>	<p>資料の P37 は、資産活用部があくまで現段階で想定している学校跡地の利活用の検討の流れを示したものです。今回、（仮称）南部コラボセンターの整備もあり、老朽化した公共施設の整理も含めて検討していくこととなります。学校施設では、様々な団体が活動していますが、その地域活動が学校施設でなければできないのかを確認、整理し、他の施設でも活動可能なのか、残す必要があるのかを検討します。次に、南部地域活性化に向けた活用方法の検討、そして、市全体からみた活用方策の検討をしていきます。</p>
<p>小中一貫校をつくるのは構わないが、新しく学校を建設するにあたっての予算規模はどれくらいになるのか。学校跡地を売却して資金を確保せずに新校舎を建てることのできるのか。</p>	<p>施設一体型の小中一貫校を建てる場合、既存の校舎を活用することは難しく、今回は新たに校舎等を整備することを想定しています。</p> <p>今はシミュレーションの段階のため、まだ金額は算出していませんが、この構想案について、市長、副市長にも事前に説明をし、了承いただいたうえで、説明会を開催しております。</p> <p>今回の新しい学校の建設について、学校跡地を売却しなければ財源が措置できないというわけではありません。例えば、今回のように学校再編による校舎の建て替えであれば、国の補助事業等があります。市の負担ができるだけ少なくなるような方法で進めていくことを考えています。</p>
<p>庄内地域はどういう方向でまちづくりを進めていくのか。都市計画はどうなっているのか。まちづくりを考えないと、新しい学校についても考えられないのではないのか。</p>	<p>平成 29 年度（2017 年度）中に、今後の南部地域のまちづくりの方向性を示した「（仮称）南部地域活性化構想」を策定する予定です。</p> <p>庄内のまちを活性化するために、例えば、地域に応じて特徴的なゾーニングをしていくことも考えられます。平成 29 年度（2017 年度）以降、大きな方向性が示されていく予定であり、それと並行して、新しい学校についても検討を進めていきたいと考えています。</p>
<p>平成 29 年度（2017 年度）中、つまり来年度いっぱいかけて計画を策定するのか。</p>	<p>拙速に決めることなく、しかし、喫緊の課題であることから、来年度のできるだけ早い段階に策定したいと考えています。</p>
<p>仮開校の際、野田小に庄内小、島田小が同居した場合、野田小の校舎ですべての児童を収容できるのか。また、小学校が合わさる場合、地域のいろんな活動は具体的にどうなるのか。</p>	<p>野田小学校には東館があり、現在、主に地域の活動場所として利用されています。3 つの小学校が野田小学校の敷地に通うことになれば、今使用している校舎だけではなく、東館を使用する必要が出てきますので、東館の改修工事が必要になると考えています。地域の活動につきましては、行事や活動内容によ</p>

	<p>っては、他の地域と合同で開催することや、学校ではない公共施設で活動することも考えられます。今後どのような活動をしていくのか、皆さまの意向を尊重し、引き続き市として支援に努めていきます。</p>
<p>学校の再編はやむをえないと考えている。 豊中市内では、人口が増えている地域がいくつかある。 千成小学校区では、マンションが建って、子どもの数が一時的に増加したが、また減少し始めている。継続的に子どもの数が増えるにはどうすればいいのかを検討して欲しい。 学校を利用して活動している団体が今後どうなっていくのかも心配している。跡地に施設を残してもらったとしても、施設の維持管理を地域できるように、とになってしまうとそれはそれで難しい。このような内容も検討して欲しい。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。ご指摘の点につきまして、検討を深めていきたいと考えています。</p>